

「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」

平成 28 年度実施報告書

埼玉県立春日部高等学校

1 学校の現状と課題

本校の使命は、校訓「質実剛健」、教育目標「文武両道」を実践し、社会人として健全な判断力と行動力を兼ね備えたリーダーの育成である。これを踏まえた「目指す学校像」の実現に向け、生徒の学力向上や進路指導の充実に係わる様々な取組を実践してきている。また、重点目標に難関大学の進学実績の向上を掲げ取組んでいる。

生徒は、普段から高度な授業内容に積極的に対応し、全員がセンター試験を受験し高い次元での自己実現を目指している。その目標のもと、生徒一人ひとり互いに個性を磨きともに啓発し合うなかで、学習と特別活動等を両立させ充実した生活の確立を目指している。

しかし、生徒はまだまだ時間に対する基本的効率的な自己管理能力を身に付けた「自立した学習者」とは言えない。このことを踏まえ、生徒に時間管理についての指導や支援、集中力の向上や自主的学習時間の一層の定着を図る指導が今後の課題である。

2 本校における 27 年度までの取組及びその成果と課題についての概要

本校では、1 自己認識及び自己啓発の確立 2 進路意識の向上 3 学力の向上 4 教員の指導力向上 の4つの柱を設定し取組んできた。その結果、多種多様な講演会や体験活動・実践をとおして、進路意識の高まりや将来を担うリーダーとしての認識は確実に高まっており、その成果は進学実績に表れている。平成 27 年度生大学入試では難関国公立大学・国公立医学部医学科 45 名、国公立大学 141 名、難関私立大学（早慶）65 名の合格者を出している。

しかしその反面、中間層や下位層の底上げが必要である。また、学習と部活動等との両立を徹底し、心身を鍛えリーダーとしての自覚を持ち、夢を進化させ実現する志を育てる教育を展開することが必要である。

3 本年度（28 年度）の実践

1) リーダー育成、学力向上に向け、外部人材を活用した講義・講演等の実践について

ア 講義・講演等のねらい

- ・ 大学体験授業・・・各大学の教育内容の概要及び入学試験の現状を知ることで進路意識を高めさせる。また、早い時期から意識付けさせ、高い志を持つ者同士で刺激し合える仲間を作るきっかけとする。
- ・ SS 特別講演会・・・最先端の研究を行っている第一人者からの講演を聴き、興味関心を深めると共に、リーダーとしての在り方を考える機会とする。
- ・ 大学模擬講義・・・大学での講義を高校の早い段階で体験することで、大学受験や将来の志望に興味関心を抱き、志を高める機会とする。
- ・ 難関大学説明会・・・最新の大学及び受験情報を学ぶことで、夢や志を高く持つ機会とする。

- ・進路トーク・・・社会の第一線で活躍している本校OBを招き、高校大学時代の様子や現在の仕事を通して職業観を聴くことで自分の将来像を考える機会とする。
- ・リーダー育成講演会・・・各界で活躍しているリーダーを講師として招き、その生き方やあるべき姿を学ぶ。

イ 講義・講演等の概要

- ・6月 大学体験授業 希望者
一橋大学40名、早稲田大学商学部80名、慶応義塾大学経済学部80名、筑波大学80名、東京理科大学薬学部60名 千葉大学共生応用化学科80名
- ・9月 SS特別講演会 全学年
日産自動車グローバル技術渉外部部長 長谷川 哲夫氏
演題「車の電動化と智能化」
- ・10月 大学模擬講義 2年生全員
東京大学経済学研究科 教授 川口 大司氏 演題「経済学の魅力」
- ・10月 大学模擬講義 1年生全員
千葉大学工学部教授 教授 齋藤 恭一氏 演題「卒業研究で学生が作った吸着繊維GAGAが福島第一原発の汚染処理に採用されるまで」
- ・10月 大学模擬講義 希望者
東北大学工学部 教授 安齋 浩一氏 演題「科学と工学のちがい」
- ・1月 難関大学説明会 外部教育団体講師及び本校進路指導部教員2年生希望者
- ・2月 進路トーク（OBによるパネルディスカッション）1年生全員
講師：裁判官、大学教授、輸送機器メーカー社員、芸術家
- ・2月 リーダー育成講演会（本校OB）2年生全員
講師：ホテルオークラ取締役会長 清原 當博氏

ウ 生徒の様子（アンケート結果等）

- ・「AIをどのように上手く利用できるか」ということにとても興味がかり、講演を通して知ることができた。
- ・それほど難しくなく、経済学の入口の話で興味が持てた。文系の内容ながら、視点として科学的な一面を持つ経済学の多様性について知ることができた。
- ・共通してOBの方々が、「努力し続けていた」ということが印象的でした。
- ・失敗を失敗で終わらせないことの大切さを教えていただいた。また、社会に出て働くことの厳しさも教えていただいたと思う。

2) 県主催の事業に参加した生徒による報告会等学校全体への波及の取組についての実践

ア 報告会等のねらい

本校の代表として参加した生徒が、学んできたことを伝えることで貴重な体験を共有し、リーダーとして社会に貢献したいという意識を醸成させる。

イ 報告会等の概要

- ・高校生のためのアスペン古典セミナー参加者4名→生徒会本部役員会で報告
- ・芸術文化アカデミー（対話からはじまる美術）参加者6名→部活動内で報告
- ・東日本大震災被災地訪問参加者2年生2名1年生1名→学年集会時に報告
- ・最先端スポーツ研究施設訪問参加者4名→運動部合同ミーティング時に報告

- ・先端研究施設訪問（高エネ研・産総研）参加者5名→課題研究基礎発表会で報告
- ・スポーツ教養セミナー「トップアスリート講演会参加者13名→部活動内で報告

ウ 生徒の様子（アンケート結果等）

- ・一つの事柄から複数の課題へ繋がっていくことの楽しさに触れられた。他者の考えを聴くだけでも自分の意見がより深まるという事を肌で実感できた気がする。
- ・多角的な視野の活用をすることの重要性を感じた。
- ・もっとイニシアチブを持った人が先頭に立たないと本当の意味での復興はない。
- ・この施設の食事がバイキング形式であることに驚いた。栄養のバランスを考えた定食であるイメージがあったからです。しかし、選手が海外遠征の際自ら食事を選ぶ必要があるため、その自立支援である事に納得させられた。
- ・電子ビームの曲げ方や加速器内での電子、陽電子の振る舞いが少しわかってうれしかった。また、実際に研究されている内容がどんなにすごいことか理解できたことは大きかった。自分の進路について考える参考になった。

3) 遠県視察（秋田県訪問）について

ア 報告会等の概要

1日目に国際教養大学、2日目に秋田南高校と秋田高校の視察を行った。

国際教養大学では、大学関係者だけではなく、在学生（県内出身者）を交えた有意義な説明会であった。新学習指導要領に掲げられる「主体的・対話的な学び」が授業はもちろん、それ以外の活動や大学生活全般で行われていて、高校を卒業した生徒がこうあって欲しいという目指すべき自立した学習者の姿を見ることができた。

秋田南高校では、AL（アクティブ・ラーニング）の定義を学校職員で作成していることに感心した。ALが目的や型になるのではなく、ALを通して目の前の生徒にどのような力を付けさせていくかを職員で明確にしていくことは、非常に重要である。その成果が授業の様子やSGHの発表に表れていた。また、秋田県では、小・中よりAL型の授業を積極的に実施しているとのこと、各学校段階における系統立てをした県の方針を打ち出すことも不可欠であると思われる。

秋田高校では、人間力の育成を目標とし、大学入学の後を見据えた教育を実践している。文武両道は、真の文武両道を求め、教員側は最小限の手を必要とときに掛けることで、自主性を最大限に尊重している。大学入試の数値目標も大切ではあるが、そのための授業や指導ではなく、先を見据えた大きな意味での人間形成を目指しながら、授業や指導を行っていきたく強く感じた。

上記の内容について、教科ごとに教科会で報告を行った。また、職員会議において、全職員に報告するとともに、見学先で頂いた豊富な資料は全職員が閲覧できるように設置した。

イ 視察を踏まえた指導改善の取組または見通し

今回の視察の成果を速やかに発揮するために、授業における指導改善の取組を行った。上記の三校に共通していた「主体的に学習する姿勢」「人間形成」を実現するために、埼玉県が実践している協調学習や多様な学習形態（ペア・グループ等）を教材によって使い分け、生徒主体で授業を進行していく形式を実践した。その際、各単元・各時限での目標（学習指導要領・教材の内容等）だけでなく、学習活動を通してどのような人間力（協調性・主体性・課題発見力・解決力・計画力・修正力等）が得られるか明示し、それらを毎時間「振り返りシート」に書かせることで、生徒自身の学びを可視化しやすいようにした。生徒たちは主体的な学びを楽しみつつ、自身の把握もできていた。このように学習指導要領で身につけさせるべき力と人間力を、三力年で計画的に授業に盛り込み、教科全体で実施していくことができることが今後の課題で

ある。

また、いかに学校の指導で生徒及び保護者が満足できる結果を出すことができるかが重要である。学校によって使命は異なってくるが、学校内・授業内で生徒が集中する必然性を生み出させる取り組みが必要である。この視点にたった授業改善を推進するとともに、教科内や教科を超えての授業見学・研究授業の実施、研究協議の実施を数多く行っていきたい。

4) 学校において事業5年間を見据えた組織的な進路指導体制を構築する取組について

ア 生徒一人ひとりに高い志を持たせる

生徒一人ひとりの良さを見つけ伸ばす指導をとおして、生徒が自らの無限の可能性を信じ、自信を持ち自らの力で進路を切り拓いていこうとする雰囲気絶えず校内に醸成する。

- ・定期的な生徒との面談を、学校全体で同じ時期に実施する。
- ・学年毎の進路検討会を実施し、実力試験の結果から生徒個々の全国的な学力レベルを把握し学年団で共有する。そして、教職員全体で生徒を指導し上位校を目指す意識を育てていく。
- ・ガイダンスの充実・定期的な進路講演会・大学見学会の活用・大学模擬講義実施

イ 学習時間の確保と家庭学習の定着

隙間時間を活用させることにより、自学自習の習慣を確立させる。この定着を図る指導が、高い次元での自己実現を果たすための大前提である。

- ・春高手帳を活用させ時間に対する基本的・効率的な自己管理能力を身に付けさせる
- ・朝学習
- ・早朝講習会、長期休業中の講習会、個々に対応した小論文指導

ウ 教職員の質の高い教科指導力を維持する

質の高い授業実践と指導内容や指導方法の工夫改善が絶えず必要であり、生徒のやる気を喚起する学習指導に万全の態勢で臨まなくてはならない。

- ・教員セミナーへの積極的な参加。入試分析会への参加。校内進路研修会の充実。
- ・公開授業や研究授業を活用した教科内の研修の充実。
- ・生徒による授業アンケートの実施。

5) その他

「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」

授業公開及び研究協議会

- 1 期 日：平成28年11月4日（金）14：00～17：00
- 2 授業公開： 14：30～15：35（5次限目 65分授業）
研究授業クラス 4階 2年6組 英語R授業者 英語科教諭 成亥 尚子
授業公開クラス 1、2学年全クラス
- 3 全体会 16：00～16：50
(1) 開式の言葉 (2) 校長挨拶（益子校長）
(3) 高校教育指導課挨拶及び埼玉版リベラルアーツ事業について（中村指導主事）
(4) 春日部高校骨太リーダー育成リベラルアーツ事業の取組について（三ツ井教頭）
(5) 研究協議

① 研究授業及び公開授業について

- ・ 授業担当者戊亥教諭より本時の授業を振り返って
- ・ 春日部高校英語科の授業について瀬川教諭より報告

② 教科指導力向上に関する意見・情報交換

- ・ 寝ている生徒や意欲の薄い生徒が見られなかったがその工夫は？
なるべく様々な授業形態を取り入れるようにしている。座って説明を聞くのは、最長でも30分と決めている。それよりも長引くときは、英文に関連する情報を差し挟んだり、授業者の経験談を話したりして、心理的な休憩時間を入れるようにしている。
- ・ アクティブラーニングが求められているが、必ずしもグループ討議の形でなくても、ペアワーク、教員からクラス全体への質問の投げかけを利用し、生徒が主体的に考えて授業に参加していたので、十分にアクティブラーニングであったと言える。今後も活発な授業展開を期待する。

③ 高校教育指導課より 中村 洋子 指導主事

(6) 閉式の言葉

4 他校参加者 越谷北高校3名、浦和西高校1名、蕨高校1名

4 参考資料

埼玉県立春日部高等学校
「骨太のリーダーを育成する高校生のための
埼玉版リベラルアーツ事業」



